

福島・討論授業

テレビ局の取材

新聞社がディベートの授業を取材し、それが記事として新聞に掲載されました。すると、しばらくして今度は、テレビ局から連絡がありました。ディベートの授業をニュースで放映したいとのことでした。ディベートの映像が流れるため、ディベートの様子がよくわかり、その醍醐味の一端を紹介することができます。以下のものは、事前にテレビ局から送られてきたものです。

東西南北～福島・討論授業～

福島県内のニュースや話題をお伝えする「ふくしま東西南北」きょうは福島局の加藤記者です。

(アナ) きょうはどんな話題ですか

(記者) 福島市内の中学校で行われている「ディベート」という討論形式の授業についてお伝えします。

(V) ディベートはアメリカを中心に普及している授業方法です。あるテーマについて肯定派と否定派に分かれて論議し、別の生徒たちが判定します。

この授業を行っているのは、福島市立北信中学校で1年生の国語を担当している高澤正男先生です。高澤先生は去年3年生の授業で初めてこのディベートを少し試みました。その結果、生徒の話す力が引き出せたため今年度この2学期から本格的に実践しています。

この日は「通学シューズを学校指定にするべきか」がテーマでした。2人の生徒が司会を務めます。肯定側と否定側、それぞれ4人ずつがチームになって意見を発表します。そして28人の生徒が判定します。

まず肯定・否定双方が、3分間ずつ「立論」つまり自分の主張の根拠を述べ、それがいかに正しいかを証明します。

(SE) これが終わりますと双方が2分間以内で「最終弁論」を行って判定を待ちます。判定はどちらの意見が筋道が通っていたか、言葉はハッキリしていたかなどの基準で、10の項目について採点され評価されます。

結局この日は24対4で否定側に軍配が上がりました。自分の足に合った靴、個性の尊重という立場で通学シューズを学校指定にするべきではない、という意見が支持されました。

(インタビュー／生徒・先生) 中学校では昨年度から学習指導要領が変わって思考力・判断力・表現力を高める教育を重視しています。現場では様々な試みが始まっています。このディベートもその一つで、県教育委員会では表現力などを高める有効な手法の一つとみて注目しています。